

おすすめ支援具の紹介（3）

以下に、指導におすすめの自作の支援具（第3弾）を紹介します。今回も簡単に作れるものばかりを紹介しています。

支援具	ねらい	説明
 <p style="text-align: center;">手型マーク</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身体接触して合図する位置の理解 	<ul style="list-style-type: none"> 注意喚起の仕方を教えることがおもな目的。 先生の肩に張り付けた手型を触る、ないし「たたく」ことを合図として注意喚起を行なう支援具としている。
 <p style="text-align: center;">ゴールの手型マーク</p>	<ul style="list-style-type: none"> 走っていく目的地の理解 ひとりで目的地点を理解して走っていきける。 	<ul style="list-style-type: none"> 手型に触れたり、手型に自分の手を合わせたり、ポンと手型をたたくことで、ゴールとする。 ゴールのラインを越えるよりも、このように手で触ることで走ることが終わりと示すほうが、ゴール地点として分かりやすいようだ。 
 <p style="text-align: center;">集会の内容表示カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高学年児童の集会活動の内容の理解 集会の活動順番の理解 	<ul style="list-style-type: none"> 高学年児童の合同の集会活動（4年、5年、6年で週1回30分、合計児童数60名ほど）の時間内の活動の流れをカードで示す。カードは、A3判（432×306mm）の大きさのもの。 写真で示した例は、「あいさつ」からはじまり、「体操」、「座って話を聴く」、「歌を歌う」、「クラス集団で歩く」、「棒を持って歩くゲーム」の順番を示している。 ひとつの活動が終われば、そのカードは外していく。
 <p style="text-align: center;">体育祭の予定カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の出演する演技がいつあるのかを知る。 出演しない演技の時はどうしていたらよいのかを知る 体育祭がいつ終わるのが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭の各学年の演技の流れにそって上から順番に書いておく（写真の場合は文字で）。その時にどうすればよいのかを示している。例えば、最初の演技のときには、「座って見る（つまり、出演ではない）」ことがPICカードで示されている。次の演技の時も同じく「座って見る」ことが示されている。その次は、自分の出演する演技であることが、演技の絵で示されている。 となりに座っている先生は、この予定カードを演技ごとに見せて、今の演技の時はどうすればよいのかを示す。さらに、同じように次の演技の時もどうすればよいのかを示す。 終わった演技は、線を引いて消していつている。この写真のカードを用いた対象児童は、線で消していくことで終わったことが理解できていた。



ろうかの中央線

- ろうかを両側に分かれて歩く。
- 右側通行を理解する。

- ろうかを両側に分かれて歩くことで、多人数でもスムーズに歩行移動ができることを集団生活でのルールとして知り、自然と身につけることができる。
- ろうかを歩くときに、どこを歩けばよいのかが分かり、社会生活上のルールとして身につけていける。道路歩行（道路の真ん中でなく、端を歩く）にも応用可能と思われる。
- 本校では、中央線（白線）を意識して歩くことで、狭い幅のところもぶつからずに歩くことができるようになった。

